

平成 14 年度 社会安全研究財団委託調査研究報告書

国民の治安確保に関する意識調査

平成 15 年 3 月
(2003 年)

はじめに

これまで多くの日本人は、イザヤ・ベンダサンが『ユダヤ人と日本人』のなかで指摘したように、治安が次第に悪化しているにもかかわらず、安全はただだと考えていた節がある。しかし、9.11の米国同時多発テロの発生以来、日本人の安心感も揺らぎをみせ、テロの発生が急に現実味をもって受け止められるようになったのではないだろうか。このような状況下で警察行政が国民のニーズに応える確な対応をとるためには、国民が警察に何を求めているのか、また、安全のために自分自身では何を行う用意があるのかについて詳細に調査する必要がある。昨今の変化としては、長年警察まかせだった安心・安全もただで護られるものではなく、そこには選択肢が存在し、提供される安全次第では一層のコストを負担してもよいと、国民の考え方も変わってきているのではないだろうか。

社会安全財団の委託をうけた本調査では、人々の安心・安全に対する不安感、安心・安全のために講じている対策や、そのような防犯活動のためにどこまで経済的、時間的コストを負担する用意があるか、個人のプライバシー保護との兼ね合いで、どの程度までの防犯活動を許容できるのか、またこうした点に日頃のメディア接触の影響がみられるのか、といった問題を中心にとりあげている。加えて、困り事の相談に行った際の警察の対応や、警察官による巡回戸別訪問に対する評価も問うている。

更に、警察庁が出会い系サイトに関する処罰について立法措置を準備している問題についてもとりあげた。先に警察庁が行ったアンケート調査は回答者数は多いが、運転免許証更新のためにたまたま警察にきた人を対象としているとい制約があり、ランダムサンプルを用いた本調査でも同様の結果が得られれば、警察庁の調査結果の説得力が増すものと思われる。

本調査も、これまでわれわれの研究グループが行ってきた調査と同様、国民の治安維持に関する態度や行動と、警察に対する期待の内容を的確に把握することを意図している。本調査の成果を、多くの国民の願いである良好な治安の維持に役立てて頂けると幸いである。

国民の治安に関する意識調査委員会

代表 岩男 壽美子
国広 陽子
佐渡 真紀子
山本 明

目 次

はじめに

第1章 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査主体	1
3. 調査設計	1
4. 調査回答者の属性	2

第2章 犯罪被害者と防犯対策

1. 犯罪被害経験	5
2. 犯罪被害についての不安意識	8
3. 個人がとっている犯罪被害防止策	12

第3章 テロに関する意識

1. 自分自身がテロ被害にあう可能性	17
2. 9. 11 後にとった行動	17
3. 国内でテロによる被害が起きる可能性のある場所	20
4. 国内で起こる可能性のあるテロの手段	20
5. テロ防止策の必要度	21

第4章 生活安全の責任とコスト負担に関する意識

1. 責任とコスト負担に関する意識	23
2. 犯罪防止と被害保険の投資意向	26
3. 救急車利用へのコスト負担	26
4. 警察への相談経験	28

第5章 メディア接触行動と犯罪に関する意識

1. 犯罪および防止策に関する情報とメディア	31
2. 携帯電話に関する犯罪の被害と防止	34
3. インターネットに関する犯罪の被害と防止	35
4. 「出会い系サイト」と児童買春	37

第6章 警察活動に対する期待

1. テロ防止策について	41
2. 犯罪防止策としての警察による巡回訪問	44
3. 警察活動に対する国民負担	46

資料

調査票／集計表

第1章 調査概要

1. 調査目的

住民が警察に何を求めている、また住民自身は安全のために何を行う用意があるかについて把握し、危機管理に関する警察の体制整備のための資料を得る。

2001年9月11日に起きたニューヨークでの飛行機によるビル破壊テロ事件は、テレビなどで繰り返し状況が伝えられ、身近な知人に被害者がいた人だけでなく、多くの日本人の生活安全意識に影響を与えたのではないかと考えられる。日本社会でのテロへの不安を人々はどのように受け止め、またテロを防止するための社会的コストをどのように捉えているか。また治安維持のための警察官増員などのコストや、外国人犯罪に対応するためのコストについて、どの程度まで許容するのだろうか。

人々の漠然とした犯罪被害への不安、現実の被害経験の有無、警察との接触経験の有無、メディア接触等がこれらのコスト意識や対警察意識とどう関連するかについても検討する。

2. 調査主体

「国民の治安に関する意識調査委員会」

研究代表 岩男壽美子（武蔵工業大学教授）

国広陽子（武蔵大学教授）

佐渡真紀子（武蔵大学講師）

山本 明（慶應義塾大学大学院）

3. 調査設計

（1）調査期間 平成15年（2003年）2月17日～3月3日

（2）調査地域 首都圏（30キロメートル範囲内）

（3）調査方法 郵送による質問紙調査

（4）調査対象 成人男女（20～69歳）750名
有効回収数 652名（回収率 87%）

対象者抽出法 (株)マーケティング・サービス リサーチモニター名簿より母集団の年齢分布に合わせてランダム抽出

(5) 質問項目

1. デモグラフィック項目

性別、年齢、職業、居住形態

2. 犯罪被害と防止

被害経験、犯罪被害についての不安度(全体的な不安・個別犯罪種別不安感)、犯罪被害防止対策

3. 防犯・防災とコスト負担意識

4. 国内でのテロについての意識

発生場所についての予測、手段についての予測・防止対策、9・11以降にとった行動

5. 犯罪防止に有効なメディアについての意識

6. 警察に関する接触経験とコスト意識

警察への相談経験、警察コストについての知識と意識、警察官の増減、戸別訪問

7. メディア接触とメディアに関する被害

テレビ視聴時間、新聞閲読時間、テレビ番組のジャンル別視聴傾向、

携帯電話使用状況、メール被害及びその対策、インターネット利用状況、ウイルス被害及びその対策、

8. 出会い系サイトを使った犯罪についての意識

4. 調査回答者の属性

(1) 性・年代

図表1-4-1 年代・性別<人数>

年代	男性	女性
20代	67	65
30代	76	63
40代	80	71
50代	67	75
60代	41	47
計	331	321

平均年齢 男性42.84歳 女性43.40歳(全体43.12歳)

(2) 職業

図表1-4-2 職業<人数>

職業	男性	女性
勤め人	237	58
自営・自由	49	17
パート・アルバイト	13	84
学生	17	9
無職	15	153

(3) 居住形態

図表1-4-3 居住形態<人数>

居住形態	男性	女性
一人暮らし	15	17
同居者あり	316	304

第2章 犯罪被害経験と防犯対策

1. 犯罪被害経験

まず実際の犯罪被害経験について把握した。一般市民はどれ位の犯罪被害を経験しているのだろうか。ここでは、「すり」から「恐喝・ゆすり」まで12の犯罪をあげ、それぞれについて被害経験を尋ねた（図表2-1-1）。

12の犯罪の中で被害経験がある人の割合が全体で最も高いのは、「自転車盗難」で、回答者の49%とほぼ半数が被害にあっている。次が「痴漢」(34%)である。続いて「空き巣」(14%)、「すり」(13%)、「車上荒らし」(13%)、「車・バイク盗難」(12%)、「詐欺悪質商法」(11%)の被害経験者が多く、回答者の1割以上が経験している。12の犯罪のうち、被害にあったことのある人が最も少ないのは「強盗」(1%)である。「ひったくり」(3%)「カード犯罪」(6%)、「恐喝・ゆすり」(4%)なども比較的少ないものの、かなりの割合にのぼっている。

以下では、犯罪被害経験に性差が目立たないもの(3%未満の差)、女性の被害経験が多いもの、男性の被害経験が多いものに大別したうえで、個々の犯罪被害経験についてみていく。

(1) 性差が目立たない犯罪

「ひったくり」

被害経験率は男性2%、女性4%である。性・年代別にみると、女性の50代で1割程度と最も被害経験者が多い。

「空き巣」

男性13%、女性15%が被害を経験している。60代になると2割強と高めである。

「強盗」

男女共に経験した人は1%程度である。

(2) 女性が被害者になりやすい犯罪

「痴漢」

男女別に被害経験の有無に明確な差があるのが「痴漢」「のぞき」といった性犯罪である。なかでも女性の被害経験で突出しているのが「痴漢」で、女性全体の65%に被害経験があ

る。20代では80%、30代では81%という被害経験率の高さは、これまでの日本社会が性的犯罪に寛容な「痴漢大国」であったことを物語っているといえよう。ただし、男性にも少数(4%)の被害経験者がいる。

図表2-1-1 犯罪被害経験(%)

			N	すり	ひったくり	空き巣	車・バイク盗難	自転車盗難	車上荒し
全体			652	12.6	3.1	13.8	11.5	48.8	12.9
男性			331	8.8	1.8	12.7	15.1	47.4	14.5
女性			321	16.5	4.4	15.0	7.8	50.2	11.2
男性	20 ~ 29 歳		67	11.9	1.5	7.5	16.4	71.6	7.5
男性	30 ~ 39 歳		76	6.6	1.3	9.2	22.4	39.5	14.5
男性	40 ~ 49 歳		80	5.0	3.8	17.5	13.8	50.0	18.8
男性	50 ~ 59 歳		67	10.4	0.0	11.9	13.4	35.8	16.4
男性	60 ~ 69 歳		41	12.2	2.4	19.5	4.9	36.6	14.6
女性	20 ~ 29 歳		65	10.8	3.1	6.2	6.2	52.3	7.7
女性	30 ~ 39 歳		63	23.8	3.2	12.7	12.7	41.3	15.9
女性	40 ~ 49 歳		71	16.9	1.4	15.5	7.0	53.5	11.3
女性	50 ~ 59 歳		75	13.3	10.7	18.7	6.7	50.7	12.0
女性	60 ~ 69 歳		47	19.1	2.1	23.4	6.4	53.2	8.5
			N	強盗	のぞき	痴漢	詐欺(悪質商法など)	カード犯罪(盗用など)	恐喝・ゆすり
全体			652	0.9	8.4	33.9	11.0	5.5	3.7
男性			331	0.9	0.6	3.9	8.8	7.3	5.7
女性			321	0.9	16.5	64.8	13.4	3.7	1.6
男性	20 ~ 29 歳		67	1.5	0.0	4.5	7.5	3.0	11.9
男性	30 ~ 39 歳		76	0.0	0.0	9.2	5.3	10.5	6.6
男性	40 ~ 49 歳		80	1.3	1.3	1.3	8.8	8.8	3.8
男性	50 ~ 59 歳		67	1.5	0.0	3.0	13.4	6.0	1.5
男性	60 ~ 69 歳		41	0.0	2.4	0.0	9.8	7.3	4.9
女性	20 ~ 29 歳		65	1.5	12.3	80.0	12.3	1.5	3.1
女性	30 ~ 39 歳		63	0.0	19.0	81.0	11.1	4.8	1.6
女性	40 ~ 49 歳		71	0.0	14.1	60.6	14.1	7.0	0.0
女性	50 ~ 59 歳		75	0.0	17.3	56.0	17.3	0.0	1.3
女性	60 ~ 69 歳		47	4.3	21.3	42.6	10.6	6.4	2.1

「のぞき」

「のぞき」の場合も性差がはっきりしており、女性の被害経験は17%と多いが、男性は1%と少ない。

「すり」

性犯罪ほど極端な被害経験の差はないものの、「すり」も女性の方が被害者になりやすいようである(女性の被害経験は17%、男性は9%)。30代の女性の4人に1人(24%)が被害者である。

「詐欺・悪質商法」

若干ではあるが、女性の方が被害経験率が高い。年代別にみると、女性の中でも50代の被害経験が高い(17%)。

「自転車盗難」

男女共に被害経験率が高く、ほぼ半数が被害を経験しているが、女性の方が若干被害率が高い。ただし最も被害経験率が高いのは20代の男性で7割以上にのぼる(72%)。

(3) 男性が被害者になりやすい犯罪

これらの性差は、男性が女性よりも車・バイクの所有者になりやすく、またカードを利用しやすい立場にあるということの現れかもしれない。今後、女性の社会進出に伴ってこうした被害経験の性差が減っていくことも予想される。

「車・バイク盗難」

被害経験比率は男性15%、女性8%である。男性はどの世代でも被害経験者が1割を超えているが、その中でも30代が際立って多い(22%)。

「車上荒らし」

回答者全体では被害経験率は13%であるが、男性15%、女性11%と若干の差がみられる。男性の中で被害経験率が高いのは40代(19%)、女性では30代(16%)である。

「カード犯罪」

若干男性の方が多い(男性7%、女性4%)。男性の中では30代・40代が比較的多い(それぞれ11%、9%)。

「恐喝・ゆすり」

男性は6%、女性では2%の被害経験率である。20代では性差が大きく、男性は12%、女性は3%である。

2. 犯罪被害についての不安意識

(1)一般的に感じる犯罪への不安

人びとは犯罪に巻き込まれる不安をどの程度抱きつつ生活しているのだろうか。どのような犯罪かは特定せず、「あなたは自分が犯罪に巻き込まれて被害者になるかもしれないと不安に思うことがありますか」と質問し、「かなりある」から「ほとんどない」まで4段階で回答を求めた結果が、図表2-2-1である。

全体では「かなりある」がほぼ1割、「少しある」が6割と最も多く(61%)、「あまりない」2割強(23%)と「ほとんどない」(7%)を合わせると3割である。つまり7割の人が漠然と犯罪被害者になる不安を持っていることになる。不安を抱いている割合は7割強と全体的に女性の方が男性より10ポイント程度高い。

性・年代別にみると60代で男女の差がかなり目立つ。女性の60代は17%が「かなりある」が男性では7%にとどまる。また女性の30代は、「かなりある」(10%)と「少しある」(75%)と合わせ85%が犯罪被害者とある不安をもっていることになり、もっとも犯罪への不安をもちやすい世代になっている。逆に男性の30代は不安をもつ人の割合が他の世代に比較しても低い(55%)。

図表2-2-1 犯罪への不安(%)

		N	かなりある	少しある	あまりない	ほとんどない	無回答
全体		652	9.0	60.7	22.5	7.4	0.3
	男性	331	7.6	56.5	26.0	9.7	0.3
	女性	321	10.6	65.1	19.0	5.0	0.3
男性	20 ~ 29 歳	67	10.4	55.2	26.9	7.5	0.0
男性	30 ~ 39 歳	76	7.9	47.4	34.2	10.5	0.0
男性	40 ~ 49 歳	80	6.3	65.0	20.0	7.5	1.3
男性	50 ~ 59 歳	67	6.0	52.2	26.9	14.9	0.0
男性	60 ~ 69 歳	41	7.3	65.9	19.5	7.3	0.0
女性	20 ~ 29 歳	65	10.8	64.6	21.5	3.1	0.0
女性	30 ~ 39 歳	63	9.5	74.6	12.7	3.2	0.0
女性	40 ~ 49 歳	71	11.3	64.8	18.3	5.6	0.0
女性	50 ~ 59 歳	75	6.7	61.3	25.3	5.3	1.3
女性	60 ~ 69 歳	47	17.0	59.6	14.9	8.5	0.0

(2)個別犯罪についての不安

ではどのような犯罪の被害者になると予想しているのだろうか。1.と同様の具体的な犯罪を挙げ、それぞれについて4段階で2～3年のうちに被害者になりそうな不安の程度を回答してもらった(図表2-2-2)。

図表2-2-2 個別の犯罪についての不安(全体)(%)

	N	かなりある	少しある	あまりない	ほとんどない	無回答
すり	652	6.0	42.3	33.6	17.9	0.2
ひったくり	652	8.6	43.9	28.7	18.7	0.2
空き巣	652	12.3	52.1	25.8	9.8	-
車・バイク盗難	652	5.7	30.7	33.1	29.8	0.8
自転車盗難	652	17.8	45.4	20.6	16.1	0.2
車上荒し	652	7.2	34.4	30.8	27.3	0.3
強盗	652	3.4	30.1	46.5	19.8	0.3
のぞき	652	2.0	17.3	41.0	39.7	-
痴漢	652	2.8	13.3	37.6	46.2	0.2
詐欺(悪質商法など)	652	4.0	22.4	42.3	30.7	0.6
カード犯罪(盗用など)	652	7.4	41.1	29.8	21.8	-
恐喝・ゆすり	652	1.7	13.2	48.3	36.5	0.3

回答者全体では「かなりある」が最も多のが「自転車盗難」(18%)である。ただし「自転車盗難」は前章でみたように被害経験者が多かった割には、今後の被害不安は相対的に少ないという特徴がみられる。経験者は予防策をとるようになったためだろうか。続いて多いのは、「空き巣」(12%)、「ひったくり」(9%)である。

「痴漢」「のぞき」「すり」も被害経験が多い割に今後の不安は比較的少ない。その反対に被害経験者が比較的少ないにも関わらず、将来被害者となる不安が多いのが、「強盗」「カード犯罪」である。

以下では、「かなりある」「少しある」と答えた回答者をまとめて「不安がある」、「あまりない」「ほとんどない」回答者を「不安がない」としてまとめ、個別の犯罪について抱いている不安の様子をみていく(図表2-2-3)。

「すり」

不安がある者となない者がほぼ半々である。「不安がある」グループのうち「かなりある」は1割以下で「少しある」が4割強である。全体的に女性の方が不安を感じる人が多い。

図表2-2-3 個別の犯罪についての不安(性別)(%)

		N	かなりある	少しある	あまりない	ほとんどない	無回答
すり	男性	331	3.9	33.2	37.2	25.7	0.0
	女性	321	8.1	51.7	29.9	10.0	0.3
ひったくり	男性	331	3.6	27.8	38.4	30.2	0.0
	女性	321	13.7	60.4	18.7	6.9	0.3
空き巣	男性	331	10.3	47.1	29.3	13.3	-
	女性	321	14.3	57.3	22.1	6.2	-
車・バイク盗難	男性	331	6.9	35.3	32.3	25.1	0.3
	女性	321	4.4	25.9	34.0	34.6	1.2
自転車盗難	男性	331	16.3	39.9	23.9	19.6	0.3
	女性	321	19.3	51.1	17.1	12.5	0.0
車上荒し	男性	331	8.5	38.4	28.1	24.8	0.3
	女性	321	5.9	30.2	33.6	29.9	0.3
強盗	男性	331	3.0	23.6	47.7	25.4	0.3
	女性	321	3.7	36.8	45.2	14.0	0.3
のぞき	男性	331	0.3	6.0	35.6	58.0	-
	女性	321	3.7	29.0	46.4	20.9	-
痴漢	男性	331	0.3	1.8	28.4	69.5	0.0
	女性	321	5.3	25.2	47.0	22.1	0.3
詐欺(悪質商法など)	男性	331	3.6	19.6	38.4	38.4	0.0
	女性	321	4.4	25.2	46.4	22.7	1.2
カード犯罪(盗用など)	男性	331	7.6	39.3	26.3	26.9	-
	女性	321	7.2	43.0	33.3	16.5	-
恐喝・ゆすり	男性	331	2.1	14.5	42.9	40.5	0.0
	女性	321	1.2	11.8	53.9	32.4	0.6

「ひったくり」

これも不安がある者となない者がほぼ半々近いが、「すり」よりは不安のある人が多い。女性と男性とで大きな差が出ており、女性は7割が不安をもっている。ハンドバッグや買い物袋などを持ち歩く女性と、バッグを持つことが少ない男性との違いであろうか。

「空き巣」

不安がある者は回答者全体のほぼ7割という高率になっている。

「車・バイク盗難」

不安がある者は回答者全体の半数以下である。性別による差があり、男性の方に不安を

もつ回答者が多い。とくに多いのが20代の男性が6割に不安がある。車・バイクの利用者が多くそうした犯罪に巻き込まれる可能性を予測しやすいためと思われる。

「自転車盗難」

不安がある者が回答者全体の6割を超える。日常生活で「自転車盗難」が横行している様子がうかがわれる。「かなり不安がある」が2割弱である。性・年代別にみると女性の40代で3割が「かなり不安がある」と回答しており、最も比率が高い。

「車上荒らし」

不安がある者が回答者全体の4割強である。不安がある者は男性の方に若干多い。性・年代別にみるとこの犯罪への不安をもつ回答者の比率がもっとも高いのは30代の男性であり、6割強となっている。

「強盗」

不安がある者は回答者全体の3割強である。性別でみると、女性では「少しある」が男性より10ポイント以上高い。

「のぞき」

不安がある者は回答者全体のほぼ2割である。性差が顕著で、男性は1割に満たないが女性は3割強が不安をもっている。性・年代別にみるとこの犯罪への不安をもつ回答者の比率がもっとも高いのは20代女性で、4割強が不安を抱いている。

「痴漢」

不安がある者は回答者全体のほぼ2割である。性差が顕著で、男性は2%程度とごく少なく、女性は3割強が不安をもっている。性・年代別にみるとこの犯罪への不安をもつ回答者の比率がもっとも高いのは20代女性で、約5割が不安を抱いており、30代女性も3割、40代女性約3割で不安をもつ。

「詐欺」(悪質商法など)

不安がある者が回答者全体の3割弱である。不安がある者は女性の方に若干多い。性・年代別にみるとこの犯罪への不安をもつ回答者の比率が比較的高いのは30代以上の女性で、3割強となっている。

「カード犯罪」(盗用など)

不安がある者が回答者全体のほぼ半数(48%)とかなり多くなっている。顕著な性差はみられない。世代別にみると、不安がある者は40代がピークになった山型に分布している。カードが不可欠な生活をしている世代に不安が高くなっているのかもしれない。

「恐喝・ゆすり」

不安がある者は回答者全体の2割弱(15%)である。不安がある者は男性の方に若干多い。性・年代別にみるとこの犯罪への不安をもつ回答者の比率が比較的高いのは40代の男性で、24%となっている。

3. 個人がとっている犯罪被害防止策

人びとはどのような防犯対策を講じているだろうか。とくに「空き巣」や「強盗」といった住居・財産に関する防犯、個人情報漏洩に関する配慮など、個人的に取りうる防犯策を具体的にあげて、どの程度実行しているか質問し、それぞれ実行しているという回答をまとめた結果が図表2-3-1である。また、一般的な犯罪被害への不安(以下では個別の犯罪への不安と区別するために、犯罪不安度とする。本章2.(1)参照)と、防犯対策の実行とのクロス集計の結果を図表2-3-2に示した。「警備会社と契約する」から「警備が嚴重なマンションに住む」までの項目はかなり費用がかかる対策、「家の鍵をかえたり、戸締まりを嚴重にする」以降は、無料またはあまり費用がかからない項目である。

「警備会社と契約する」

実行している人はごく少数で2%である。犯罪被害の不安をもつ人の方がこの防犯対策をとりやすい傾向がみられる。警備会社との契約には費用がかかる点を考え合わせると、この対策をとっているのは、犯罪への不安をもちやすく、また費用を賄うことができる層に限られるといえることができるだろう。

「監視カメラをつける」

実行している人はごく少数で2%である。この対策はまだ限定的なものだといえることができる。

「貸し金庫を利用する」

実行している人は1割程度(9%)である。50代以上の年代に多く、とくに60代では3割が利用しているが、20代、30代の利用はごく少ない。

「警備が嚴重なマンションに住む」

実行している人は1割弱(7%)である。性差や年代差はほとんどみられない。犯罪不安度とはむしろマイナスの相関がみられる。

「家の鍵をかえたり、戸締まりを嚴重にする」

実行している人は回答者全体のほぼ半数(49%)である。性差がみられ、女性の方が男性より10ポイント以上多い。実行率が顕著に低いのはとくに20代男性(19%)である。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との正の相関がみられる。男性で他の年代に比べて40代の実行率が顕著に高い(61%)。

戸締りや鍵について何の対策もとっていない人が全体の半数いるという実態をどう捉えるべきだろうか。犯罪不安を「少しある」と感じながらも個人としては具体的対策をなにもとらないのが一般の人びとの現状だといえるかもしれない。

図表2-3-1 犯罪被害防止対策の実行(%)

			ブザーやスプレ		家の鍵をかえ		通帳と印鑑			
			警備会社と	一など防犯グッ	たり戸締まりを	監視カメラ	を別々に保	貸し金庫を		
			N	契約する	ズをもつ	をつける	管する	利用する		
全体			652	1.8	5.7	48.8	1.8	60.3	8.6	
男性	20	～ 29 歳	67	0.0	0.0	19.4	1.5	38.8	0.0	
男性	30	～ 39 歳	76	0.0	2.6	42.1	0.0	50.0	3.9	
男性	40	～ 49 歳	80	0.0	7.5	61.3	1.3	61.3	3.8	
男性	50	～ 59 歳	67	3.0	0.0	44.8	0.0	61.2	9.0	
男性	60	～ 69 歳	41	2.4	4.9	41.5	0.0	73.2	19.5	
女性	20	～ 29 歳	65	0.0	10.8	44.6	4.6	49.2	3.1	
女性	30	～ 39 歳	63	4.8	6.3	52.4	0.0	52.4	1.6	
女性	40	～ 49 歳	71	4.2	7.0	62.0	4.2	71.8	9.9	
女性	50	～ 59 歳	75	4.0	6.7	52.0	5.3	73.3	13.3	
女性	60	～ 69 歳	47	0.0	12.8	68.1	0.0	80.9	34.0	
			外出しているこ		請求書など情		警備が厳		実行してい	
			とが判らないよ	隣近所と声	報が漏れない	夜道を一人	重なマンシ	るものはな		
			N	うに工夫	を掛け合う	ように捨てる	で歩かない	ョンに住む	い	
全体			652	39.6	24.7	47.9	19.3	7.1	8.1	
男性	20	～ 29 歳	67	19.4	3.0	25.4	4.5	4.5	32.8	
男性	30	～ 39 歳	76	31.6	18.4	39.5	5.3	5.3	11.8	
男性	40	～ 49 歳	80	28.8	23.8	46.3	3.8	8.8	3.8	
男性	50	～ 59 歳	67	41.8	16.4	58.2	7.5	9.0	11.9	
男性	60	～ 69 歳	41	61.0	36.6	58.5	4.9	9.8	0.0	
女性	20	～ 29 歳	65	30.8	12.3	46.2	29.2	9.2	6.2	
女性	30	～ 39 歳	63	41.3	34.9	39.7	33.3	7.9	6.3	
女性	40	～ 49 歳	71	40.8	40.8	50.7	31.0	7.0	2.8	
女性	50	～ 59 歳	75	54.7	37.3	61.3	37.3	6.7	1.3	
女性	60	～ 69 歳	47	61.7	27.7	59.6	40.4	2.1	0.0	

図表2-3-2 犯罪被害への不安度と防止対策の実行(%)

犯罪被害への不安度	N	ブザーやスプレー		家の鍵をかえたり		通帳と印鑑	
		警備会社と	など防犯グッズを	戸締まりを厳重に	監視カメラを	を別々に保	貸し金庫を利
犯罪被害への不安度	N	契約する	もつ	する	つける	管する	用する
かなり ある	59	5.1	10.2	67.8	1.7	61.0	11.9
少 し ある	396	2.0	6.1	49.7	2.5	63.1	8.1
あまり ない	147	0.7	4.1	42.2	0.7	53.7	7.5
ほとんどない	48	0.0	2.1	37.5	0.0	56.3	12.5

犯罪被害への不安度	N	外出している		請求書など情報		警備が厳重	
		ことが判らな	隣近所と声	が漏れないように	夜道を一人	なマンション	実行している
犯罪被害への不安度	N	いように工夫	を掛け合う	捨てる	で歩かない	に住む	ものはない
かなり ある	59	47.5	25.4	50.8	30.5	5.1	8.5
少 し ある	396	43.7	26.3	48.5	20.2	6.6	6.6
あまり ない	147	28.6	21.1	46.9	12.9	8.2	11.6
ほとんどない	48	27.1	20.8	39.6	18.8	10.4	10.4

「通帳と印鑑を別々に保管する」

実行している人は回答者全体の6割と多数派である。性差がみられ、女性の方が男性より10ポイント以上多い。また年代差も大きい。実行率が顕著に低いのは20代男性で4割である。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との相関はみられない。

「外出していることが判らないように工夫する」

実行している人は回答者全体の4割である。性差がみられ、女性の方が男性より10ポイント以上多い。また年代差もみられ上の年代の方がよく実行している。実行率が顕著に低いのは20代男性で2割しか実行していない。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との正の相関がみられる。

「請求書など情報が漏れないように捨てる」

実行している人は回答者全体のほぼ半数である。性差がみられ、女性の方が男性より若干多い。また年代差もみられ上の年代の方がよく実行している。ここでも実行率が顕著に低いのは20代男性で3割弱が実行しているのみである。女性の場合はむしろ30代より20代の方が若干実行率が高い。

犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との正の相関がみられる。今回調査では質問していないが若い女性の場合、ストーカー被害に敏感なのかもしれない。

「隣近所と声を掛け合う」

実行している人は回答者全体の3割弱である。性差がみられ、女性の方が男性より10

ポイント以上高い。年代による一貫した傾向はみられない。ここでも実行率が顕著に低いのは20代男性で3%しか実行していないが、20代女性も12%と低い。40代女性は4割が実行している。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との明確な相関はみられないものの、不安がないグループよりあるグループの方が実行する傾向がある。

「防犯ブザーやスプレーなど防犯グッズをもつ」

実行している人は回答者全体の1割に満たない(6%)ものの、女性の実行率が若干高い。20代女性では11%がこの対策をとっている。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との相関がみられる。

「夜道を一人で歩かない」

実行している人は回答者全体のほぼ2割である。性差がみられ、女性の方が男性より顕著に多い。男性ではどの年代も少なく(1割未満)、女性では20・30・40代は3割程度、50・60代では4割となる。犯罪不安度とのクロスでは犯罪不安度との明確な相関はみられないものの、不安がないグループよりあるグループの方が実行する傾向がある。

「実行しているものはない」

ここであげた項目のどの対策もとっていない人は、回答者全体のほぼ1割である。性差がみられ、男性の方が女性より10ポイント程度多い。これまでみてきたことから分かるように、「実行しているものがない」のが最も多いのは20代男性で、3割強にのぼる。犯罪不安度とのクロスでは、不安がないグループの方が、何も実行しない傾向がある。